



パークセンターだより 第75号 2005年10・11月号

21世紀の森と広場の赤とんぼ



自然解説員

たなかひろたか
田中宏卓

秋の空に赤とんぼがたくさん舞う季節になりましたね。日本人にとって赤とんぼは「夕焼け小焼け～の赤とんぼ～」の歌に歌われていることもあって故郷ふるさとに対する郷愁きょうしゅうを思い起こさせる存在のようです。日本人であればトンボのことが良く分からない方でも、「赤とんぼ」という名前はきつとご存じのことでしょう。

今回はこの日本人にとって重要な存在である赤とんぼのうち、21世紀の森と広場にも生息せいそくしている種類について紹介したいと思います。散策中に赤とんぼを見たときにその赤とんぼがどういう名前のトンボなのか分かるときっと楽しいと思いますよ。

[21世紀の森と広場のアカトンボ]

赤とんぼ - アカトンボとは、分類学的にアカネ属と呼ばれるグループに含まれるトンボの総称そうしやうです。そのため正式にアカトンボという名前のつくトンボは存在しません。アカネ属には現在日本で21種類が記録されていますが、この公園には次の5種類が生息しています。

1.アキアカネ (写真1)

おそらく今の時期しきに公園内でもっとも普通に見られるアカトンボでしょう。このトンボは21世紀の森と広場では6月下旬～7月初旬と9月の下旬～10月にかけてみられます。この途中の真夏の間は公園からは姿が見られなくなります。実はこのトンボは暑いのが苦手で6月下旬に公園で羽化うか



アキアカネ (写真1)

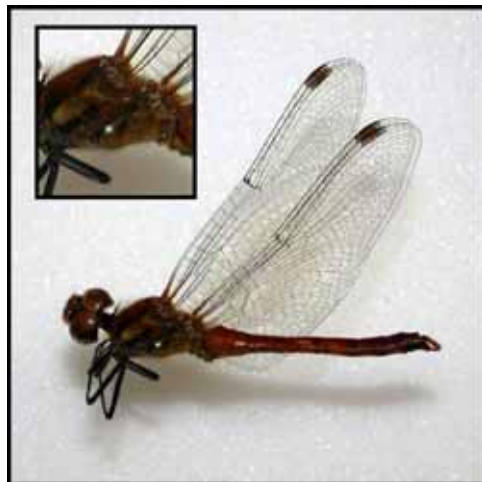
した後、どこか標高が高く涼しい場所に集団で移動して夏を過ごし、秋になり涼しくなるとこの公園のような平地に再び移動してきます。面白いですね。

次種のナツアカネと良く似ていますが、胸部の黒い筋の走り方で区別することができます。

2. ナツアカネ (写真 2)

このアカトンボは初夏から秋にかけて長い期間この公園で見られるトンボです。前種のアキアカネよりも暑さに強く、真夏のカンカン照りのなかでも公園内で見ることができます。このアカトンボは羽化してしばらくはそれほど体が赤くないのですが、オスが成熟するとまさに赤とんぼという感じに体全体が真っ赤に染まります。

前種のアキアカネと良く似ていますが、胸部の黒い筋の走り方で区別することができます。



ナツアカネ (写真 2)

3. マイコアカネ (写真 3)

このトンボはアキアカネやナツアカネとは生息している環境が多少異なるようで、この公園では薄暗い林縁などに多く見られる印象があります。前 2 種よりもかなり数が少なく、見られればラッキーなアカトンボです。マイコアカネのマイコは舞妓さんの意味で、オスの頭部前面が青白く着色されるので、これを舞妓さんのお化粧に見立てたものだと言われています。

この種は胸部の黒い筋がほとんど発達しないことと、成熟したオスの頭部前面が青白く着色されることでナツアカネ、アキアカネと区別することができます。



マイコアカネ (写真 3)

4.ノシメトンボ (写真 4)

アカトンボの仲間ではありますが、赤くなることは少ないトンボです。公園ではアキアカネ、ナツアカネと同様非常にたくさんの個体が見られ、ごくごく普通のトンボです。

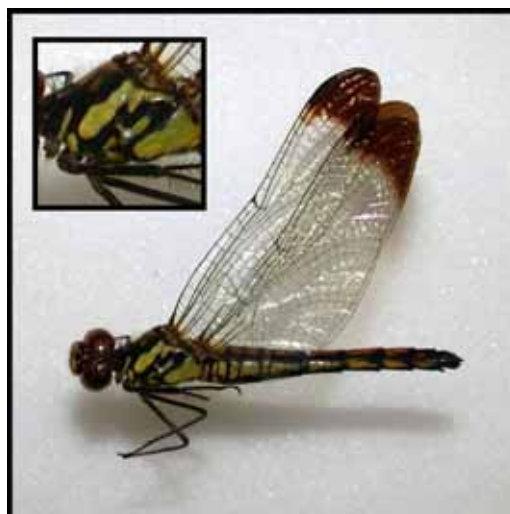
このトンボと次のコノシメトンボは翅の先端が褐色に着色されているので、上の3種とは簡単に区別できます。コノシメトンボとは区別が難しいですが、胸部の黒い筋の走り方に注目すればまず間違えることはありません。



ノシメトンボ (写真 4)

5.コノシメトンボ (写真 5)

このアカトンボは上のノシメトンボに非常に良く似ているのですが、個体数は非常に少なく、公園内でもほとんど目にすることはありません。また千葉県レッドデータブックに一般保護動物として掲載されているトンボで、残念なことに千葉県下ではかなり数が減っているようです。毎年ごく小数が公園内で見られますが、実際に見られれば本当にラッキーなトンボです。



コノシメトンボ (写真 5)

どうでしょう？みなさんこのトンボを公園内で探してみませんか？

[トンボと日本]

アカトンボに限らず、トンボは古来、日本では秋津（アキツ、アキツ）と呼ばれ、親しまれてきました。古くは日本自体を秋津島（あきつしま）とする異名もあります。これは神話において、神武天皇（神話上の日本の初代天皇）が国土を一望してトンボのようだと言ったことから来た名前です。

また、日本には非常に数多くのトンボが生息しており、現在 14 科 84 属 184 種のトンボが生息しています(1998 年現在)。この種数は、温帯に位置する小

な島国としては驚くべき数であり、日本のトンボ相の豊かさは世界に抜きん出ています（イギリス全土にトンボは53種、ヨーロッパ全体でも約160種程度しか生息していません。）

このように歴史・文化的に見ても自然史的にみても日本はトンボの国だということができます。ご存知でしたか？このたくさんのトンボたちがいつまでも、日本と21世紀の森と広場の空に舞ってほしいものですね。



10・11月催し物



講座	日時	対象・人数	講師	費用	受付
自然観察会 「初秋の昆虫観察会」	平成17年10月2日(日) 13:30～15:30	どなたでも 30名	プロチャリスト 佐々木 洋氏	無料	9/1～
展示 「農とふれあう作品展」	平成17年10月4日(火) ～9日(日)	どなたでも	松戸市農業協同組合 女性部	無料	-
昆虫ウォッチング	平成17年10月9日(日) 10:00～11:30	どなたでも 当日先着 25名	自然解説員 田中宏卓氏	無料	当日
みどりの講習会 「水ごけで作る動物の トビアリー」	平成17年10月13日(木) 13:30～15:00	どなたでも 30名	ガーデンコーディネーター 杉田 佳子氏	2,000 円	9/15～
野草ウォッチング	平成17年10月15日(土) 10:00～11:30	どなたでも 当日先着 25名	自然解説員 大谷雅人氏	無料	当日
園芸教室 「秋植え球根の植付け」	平成17年10月22日(土) 13:30～15:00	どなたでも 45名	みどりの相談員 青島尚祐氏	無料	10/1～
みどりの講習会 「晩秋から冬にかけて 楽しめるハンギングバスケット」	平成17年10月29日(土) 13:30～15:00	どなたでも 30名	ハンギングバスケットマスター 秋山英史氏	3,000 円	10/1～
バードウォッチング	平成17年10月30日(日) 10:00～11:30	どなたでも 当日先着 25名	自然解説員 今村裕之氏	無料	当日
みどりの講習会 「お正月用の盆栽飾り」	平成17年11月6日(日) 13:30～15:30	どなたでも 30名	日本盆栽協会 松戸支部長 真嶋誠一氏	1,500 円	10/15～
自然観察会 「松戸の野鳥」	平成17年11月12日(土) 13:30～15:00	どなたでも 60名	GOS企画	無料	10/15～
みどりの講習会 「秋の寄せ植え」	平成17年11月19日(土) 13:30～15:30	どなたでも 30名	県立流山高校教諭 渡邊常隆氏	1,000 円	11/1～
野草ウォッチング	平成17年11月26日(土) 10:00～11:30	どなたでも 当日先着 25名	自然解説員 川端祥子氏	無料	当日
そば打ち体験	平成17年11月27日(日) 13:30～15:30	どなたでも 20名	みどりの相談員 野口宣二氏	1,000 円	11/1～

雨天中止

予定に変更が生じる場合がございます。
詳しくはパークセンターまでお問合せください。

一石二鳥のクコの栽培



みどりの相談員
のぐちのりつぐ二
野口宣二

「^{ふるうちょうじゅ}不老長寿の^{みょうやく}妙薬」として知られているクコ（^{げんさん}枸杞・*Lycium chinense*）は日本や中国が原産で川の^{どて}土手や^{ぞうきばやし}雑木林のへりなどに多く見られる小型の^{らくようていぼく}落葉低木である。古くから^{しんぼく}神木とか^{れいぼく}霊木といわれ、一部の^{さいばい}人に栽培されてきました。このクコはナス科クコ属（世界的に100種ほどある）の一種です。

クコは大変生育がさかんで、日当たりがよく^{できしつ}適湿であればどこでもよく成長し実もたくさんつけてくれます。

^{さんせい}酸性の土は好まないため^{さんせいど}酸性土には^{せっかい}石灰か^{そうもくばい}草木灰を多く^{ほどこ}施します。植えつけは^{のぞ}真夏を除けばいつでもよいが、^{はんしよく}春先がもっともよいでしょう。

^{はんしよく}繁殖の方法は春から秋までさし木でごく簡単にできます。成長したクコは、クコ茶やクコ飯、クコ酒などをつくることができます。

^{わかめ}若芽を料理に使うには、^{きょうせんてい}強剪定で小枝をたくさん出させるとよく、^{ぼんさい}盆栽にしてながめるのも^{おもむ}趣きがあるでしょう。また、庭木に仕立てて楽しむこともできます。一例をあげると、強い枝を一本だけのばしそれを2メートル位で止めると3～4年でかなり太い^{みき}幹になります。その枝のいたるところから芽が出てきますので上の方だけ20本ほど残すとそれがぐんぐん伸び小枝が「しだれ柳」のようにたくさん^た垂れ下がってきます。春から夏にかけて3～4回^{わかめ}若芽や^つ葉を摘んで料理につかい、クコ茶もつくることができます。^{しよしゅう}初秋には小さい花がたくさん咲き、^{ばんしゅう}晩秋から^{しよとう}初冬にかけて真っ赤な実が鈴なりになりさびしくなった庭をひときわ美しくしてくれます。やがてその実はクコ酒の原料として利用できます。まさに「^{いっせきにちよう}一石二鳥」と言えるのではないのでしょうか。

ぜひ試してみてください!!!



帰化植物の代表格～

セイタカアワダチソウ

自然解説員
おおたにまさと
大谷雅人

うっとうしかった^{ざんしょ}残暑も峠^{とうげ}を過ぎ、朝夕に涼しい風が吹き渡るようになると、都市近郊^{としきんこう}ではある植物の花ばかりがやたらと目立つようになります。その名はセイタカアワダチソウ（右図）。人の背丈^{せたけ}をはるかに越える茎^{くき}の先に黄色い花の穂^ほをつける様子は、もはや風物詩^{ふうぶつし}に近いものになっているといっても過言ではないでしょう。21世紀の森と広場でも、自然生態園^{しぜんせいたいえん}や野草園^{やそうえん}など草刈があまり行われずに自然のままにされている場所に群落^{ぐんらく}を作っています。特に自然生態園^{しぜんせいたいえん}ではアシ原^{あしげ}の乾燥化に伴って個体数が増える傾向^{けいこう}にあるようです。

海外から日本に持ち込まれてそのまま定着^{ていちゃく}した帰化植物の代表格としてメディアに取り上げられることが多かったため、この名前に聞き覚えのある人は多いと思います。今回は、彼ら^{けい}がどのような経緯^{けい}で日本に入ってきて、どのようにして増えていったのかについてお話ししようと思います。



セイタカアワダチソウ

セイタカアワダチソウの故郷^{こきょう}は北アメリカの北東部です。最初に日本に持ち込まれたのは明治の頃。園芸目的だったそうです。確かに、花序^{かじょ}そのものはポリューム^{ポリューム}があってなかなか観賞価値が高いと思います。英名の「トール・ゴールデンロッド（背の高い黄金の杖^{つえ}という意味）」という名称^{めいしやう}で花屋の店先に並んでい

たら、思わず手を出してしまう人も多いのではないのでしょうか。

彼らが急速に分布を拡大しはじめたのは第二次世界大戦が終わってからで、今では北海道から沖縄までの全国各地でごく普通に見られるようになりました。空き地や荒地、土手や河川敷などの開けた明るい場所では特に勢いが強く、見渡す限りセイタカアワダチソウの大海原、というような光景も珍しくはありません。彼らがここまで勢力を拡大するに至った主な理由としては、以下のようなものが挙げられます。

高い種子生産能力

セイタカアワダチソウの花穂をルーペで拡大してみると、菊をうんと小さくしたような花がびっしりと集まって構成されていることが分かります。その数はとにかく膨大で、発芽して一年目の株ですら 10 万程度に達することもあるとか。当然ながら年数を経た株が作る種子は途方のない数になります。これらの種子が冠毛で風を受けて新天地へと飛び立っていくわけですから、分布域が広がるスピードが速いのもうなずけます。

光を巡る競争に強い

セイタカアワダチソウは縦横無尽に走る地下茎から高さ 2 ~ 3m に達する茎をびっしりと密生させて盛んに繁殖するため、その群落の内部には光が届かず、文字通り真っ暗になります。このため、より背の低い他の植物はほとんど光合成することができずに枯れてしまいます。一旦セイタカアワダチソウが生い茂るとなかなか他の植物が入ってこないのは、次に述べるアレロパシーが効いているせいでもあります。主としてはこのような光を巡る競争の結果のようです。

アレロパシー

セイタカアワダチソウは、根茎から植物の種子の発芽を邪魔する特殊な物質を出すことが知られています。この作用はセイタカアワダチソウの種子にも効いてしまうのですが、びっしりと茂った群落ではセイタカアワダチソウは主に地下茎で増えるので、大きな影響はないようです。このように、ある植物が生産した化学物質がまわりの植物たちに影響を与えることをアレロパシーと呼びます。

開発の進行

第二次世界大戦後、開発が進むにつれてセイタカアワダチソウをはじめとした帰化植物が好むような明るい開けた荒地が多くなりました。都市部では再開発や埋立地の造成など、近郊では河川敷の整備や水田の放棄などがそれに当たります。

セイタカアワダチソウを駆除することについては、未だに賛否両論があります。花粉や蜜を糧としている昆虫たちにとっては、花の少ない晩秋に大量に咲くこの植物の花は貴重でしょうし、種子は多くの冬鳥たちの好物でもあります。しかし、その一方で日本にもとからあった多くの植物たちを競争で打ち負かし、駆逐しているのも事実です。かつては様々な種類の植物たちが共存していた草場が、今はほとんどセイタカアワダチソウだけに占拠されているという光景は、やはり異常で不健全なものなのではないでしょうか。

こめっこクラブの活動報告



5月に田植えをした稲がたわわに実り先日稲刈りが終わりました。刈り取った稲は自然に乾燥させて次回は脱穀作業をする予定です。写真に写っているかかしも子ども達の手づくりなんですよ。「こめっこクラブ」はみどりの里にある田んぼを使って米作りの体験をするために募集した市内の小学4～6年生で活動しています。今年度の募集は終了しています。

発行日：2005年10月1日
発行：21世紀の森と広場パークセンター
開館：9：00～16：30
（11月1日からは9：00～16：00）
月曜休館（祝日開館/翌日休館）
〒270-2252 松戸市千駄堀269
TEL 047-345-8900
<http://www.city.matsudo.chiba.jp/>

- ・ゴミは家までお持ち帰り下さい。
- ・なるべく公共の交通機関をご利用下さい。
- ・動物、植物はとらないで下さい。
- ・ペットを連れて入らないで下さい。

